

## 出土した遺物

奈良時代から平安時代の土器に伴って、原材料の**鉍石**や作業の際に出る不純物である**銅滓・鉄滓**、銅が付着した土器、炉壁、**ファイゴの羽口**といった金属生産が行われていたことを示す遺物が出土しています。



### 鉍石・銅滓・鉄滓

鉍石の中には、銅分を含有するものもあります。銅滓は小形のものが多く、鉄滓にも作業工程の違いによってできたものもあります。



### 銅が付着した土師器

被熱によって器壁は荒れて灰白色化し、内面には緑青色の銅が付着していることから、熱せられて溶けた銅をいれて、ルツボのように用いられていたと考えられます。



### ファイゴの羽口

金属生産に用いられる炉は強い火力を必要とするため、ファイゴという送風装置を使用します。羽口はこのファイゴに取り付ける送風管になります。



### 東海道側溝から出土した土器

784年の長岡京遷都に伴い、それまで広域交通路であった道路は、東海道としての格を与えられることとなります。出土遺物から10世紀頃まで機能していたものと考えられます。

## 発掘調査でわかったこと

・金属生産に伴うと考えられる炉が3カ所確認されました。いずれも炉の上部構造や作業内容については不明ですが、出土した関連遺物を科学分析したところ以下のことがわかってきました。①鉄鉍石の中には銅分を含有するものも出土している。②出土した銅滓は小形で少量であることや、緑青が付着し被熱した土師器が出土していることから、まとまった銅生産を行っていたのではなく、銅素材の品位を高める精製作業や小型品の製作をしていたと考えられる。③鉄滓には、鉍石を溶かして鉄分を取り出す際に出る製練滓、不純物を除去して鉄の純度を高める際に出る精練滓、鍛冶作業の際にでる鍛錬鍛冶滓といった異なる工程のものが出土している。④鍛冶滓の中には微細な緑青の粒が付着するものもあり、鉄製品と銅製品の製作にあたって炉の共有があったことを示唆している。

・高野遺跡では古代東海道もみつかっており、出土遺物から10世紀中頃まで機能していたことが判明しています。金属生産も、交通便利地という立地条件のもとに奈良時代に始まりましたが、この頃までにはすでに終焉したようです。また、岡遺跡や手原遺跡といった官衙遺跡の近辺に存在していることも、高野遺跡の地で金属生産が行われた理由の一つかもしれません。

## レトロ・レトロの展覧会 2024 特別陳列 / 高野遺跡編

あかがね くろがね  
**赤銅と黒鉄** - 古墳時代～平安時代の金属生産 -

令和6年(2024年)7月22日 / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をお守りして  
ゆたかな暮らしづくりに貢献します。



## 遺跡と調査の概要

**はじめに** 栗東市北部の辻地区には、江戸時代に**鋳物**の製造販売により全国各地に出職、出店したことでよく知られている辻村**鋳物師**の本拠地がありました。これをさかのぼること千年以上前の古墳時代から平安時代にかけて、周辺地域一帯では銅や鉄製品の金属生産が行われていたことが、近年の発掘調査によりわかってきました。今回の展覧会では、古墳時代前期～中期(約1,700～1,600年前)の鉄製品の鍛冶工房がみつかった**出庭遺跡**と、奈良時代～平安時代前期(約1,300～1,100年前)の銅製品や鉄製品の生産遺構がみつかった**高野遺跡**をとりあげ、これらの金属生産にかかわる遺物や土器などを中心に紹介していきます。

**遺跡の概要** 栗東市北部の野洲川左岸に所在する**出庭遺跡**・**辻遺跡**・**岩畑遺跡**・**高野遺跡**は、古墳時代には県内屈指の大集落が存在していたことが知られています。また、高野遺跡の南辺には古代東海道が通っていたことがこれまでの発掘調査により判明しており、官衙遺跡として知られる**手原遺跡**や**栗太郡衙**とされる**岡遺跡**も近接しています。

**調査の概要** 高野遺跡の範囲内において滋賀県大津・南部農業農村振興事務所により六地藏地区ほ場整備工事が計画されました。そのため、工事に先立って発掘調査を平成30年度から令和3年度にかけて実施しました。その結果、古墳時代前期・後期の**竪穴建物**や奈良時代～平安時代の**掘立柱建物**や東海道跡、金属生産に伴う炉をはじめ、室町時代にいたる遺構・遺物がみつかりました。

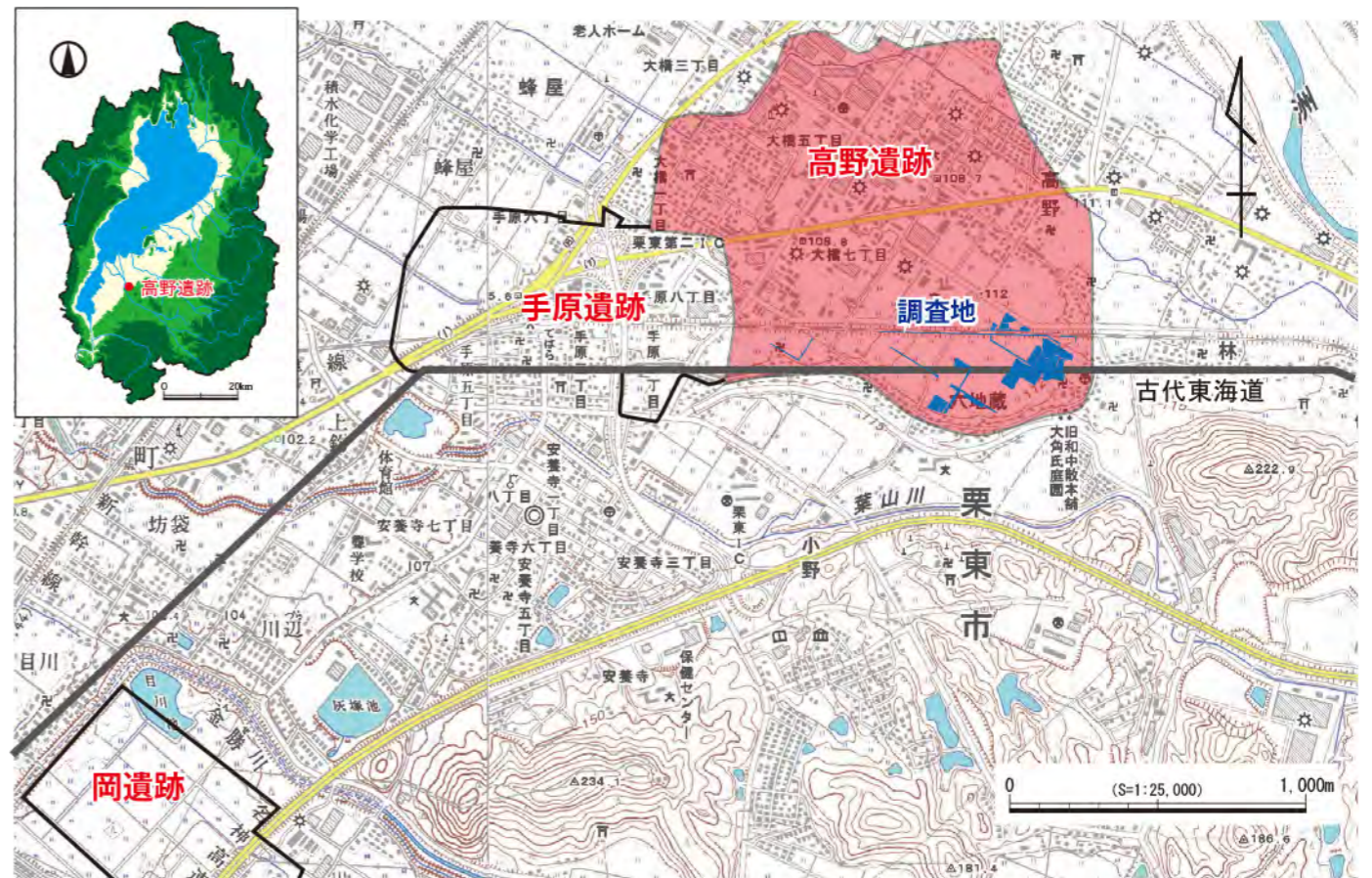


図1 高野遺跡の範囲(赤色)と今回の調査地点(青色)



炉3

炉 3カ所で炉跡がみつかりました。通常の火を焚いた跡にくらべて、とても強い火力を受けたために円形に赤く焼締まっています。後世の削平によって上部構造は不明ですが、周辺より原材料である鉱石や不純物として排出された銅滓・鉄滓が出土していることから、銅製品や鉄製品を製作していた工房が存在していたと思われます。また、関連遺物の出土場所からすると、この3カ所以外にも施設が点在していたものとみられます。



炉2 (写真中央に2基の炉が並んでいる: 赤破線の部分)



炉1 (白破線) と古代東海道側溝 (赤線)



炉1を調査しているようす



炉1 (黒い部分は炭、周囲に覆屋の柱穴とみられる小穴がみられる)